

With

ウィズ

～私たちが私たちがらしく暮らせる地域づくりを
みんなですすめようという意味を込めています～

西宮市社会福祉協議会 共生のまちづくり課 生活支援コーディネーター

小薮（全市域・甲陽園）・高井（中央）・高田（鳴尾）・牧（瓦木）・中川（甲東・山口）・北山（塩瀬）

〒662-0857 西宮市中前田町1-23 地域共生館ふれぼの内

TEL(0798)61-1361 FAX (0798)61-1409 kyoseimachi@n-shakyo.jp

今年度の 生活支援コーディネーターを 紹介します！

生活支援コーディネーターは地域住民や多様な団体、専門機関等と一緒に、地域の支え合いを推進する取り組みを行っています。今年度は以下の生活支援コーディネーターが各地区を担当します。今後とも生活支援コーディネーターをよろしくお願ひします！



名前（左から）	担当エリア
高井 茜里	中央
高田 聖矢	鳴尾
牧 祐紀子	瓦木
中川 俊亮	甲東&山口
小薮 真彦	全市域&甲陽園
北山 正幸	塩瀬



生活支援コーディネーターは
ふれぼのにいます♪

※山口地域と塩瀬地域は生活支援コーディネーターと地区担当者を兼務（北山は地域福祉課所属）

生活支援コーディネーター訪問記 “ええもん めっけ”

不登校の子どもと親の居場所 トコトコくらぶ（樋ノ口）

今回紹介するのは樋ノ口地区にある「トコトコくらぶ」さんです。毎週金曜日に不登校の子どもと親の居場所を地域で開いています。地域の中での身近なつどいは、子どもにとっても親にとってもほっとできる居場所になっています。甲東・山口生活支援 Co・中川

トコトコくらぶでは・・・

不登校の子どもと親が集まり、悩みを打ち明けたり、情報交換をしたり、美味しいお茶を飲みながら、貴重な経験を共有します。

そして「自分の子だけじゃない。特別じゃない。」と気づきます。子どもたちは安全で自由なところで、好きなことをしながら過ごし、「家とは違う空間でも大丈夫」という自信を重ねていきます。そしてエネルギーが溜まったら、社会へ一歩踏み出していきます。

ゆっくりと確かな足取りで・・・トコトコと・・・

（トコトコくらぶパンフレット抜粋）

新型コロナウイルスの影響も。。

西宮市においても不登校の児童生徒数は増加し続けています。

さらに、昨今の新型コロナウイルス感染拡大による臨時休校や夏休みの短縮など、子どもたちに大きな混乱をもたらしています。

先が見えない状況が続く中で、不安を抱えている子どもは多く、より一層家でも学校でもない第3の居場所が地域の中に必要になっています。

トコトコくらぶも、コロナ禍においてオンラインも活用しながら活動を継続されています。





共生型地域交流拠点

まち cafe なごみ(鳴尾東)

共 生 の ま ち づ く り 実 践

市内で取り組みがすすんでいる「共生型地域交流拠点」について、今号からシリーズで各拠点を紹介します。今号は鳴尾東地区の「まち cafe なごみ」を紹介します。



左 カフェの様子
右上 地域住民や大学生との共同イベント「ふぁみり〜マルシェ」の様子
右下 大学生による高齢者向け企画「スマホなんでも相談会」の様子

「まち cafe なごみ」は、地域の拠点として様々な人が集まり、繋がる場所を目指し 2014 年から運営しています。

拠点は現在 4 人の子育て世代のスタッフが中心となって運営しており、つどい場カフェ、介護予防体操、困りごとの相談等を実施しています。また、様々な地域ニーズに対して、市内の大学、地域団体やお店等とコラボしてまちづくりに取り組んでいます。

開設日 毎週月～土曜日
9:00～16:00
住所 東鳴尾町 2-16-19-102
運営団体 NPO 法人なごみ

イメージキャラクター
なごみん



拠点から生まれた つながりエピソード

地域でのつながりや自然な見守り ＜カフェの外でも身近な関係に＞

これまで話す機会のなかったご近所さん同士がカフェでばったり出会い、おしゃべりをする中でお互いの距離が縮まりました。次第にカフェの外でも声をかけ合う身近な関係が生まれています。

「参加者主体」の活動

＜自然に生まれたゆるやかな編み物の活動＞



ある日、カフェで知り合った方同士が共通の趣味の編み物をカフェで始めました。それから関心のある人も参加し始めて、自然とサークルのような形になっています。毎回の出欠確認や規則がなくゆるやかでありながら人をつなぐ活動になっています。

「ネットワーク」が生まれる

＜場を起点にして広がる見守りの輪＞

カフェに来られない人も地域で見守ろうと鳴尾東地域にあるコンビニ、お弁当屋、理髪店や福祉事業所などのお店にも声をかけて「まちの見守り隊」を結成しました。そのつながりから高齢者が行方不明になった際にメールで連絡を取り合い、一緒に探してもらったことにつながりました。

コロナ禍での取り組み

まちカフェなごみでは、4月上旬から5月末まで拠点閉鎖を余儀なくされました。その中でも何かできることはないかとスタッフ同士で話し合い、週2回スタッフが交代でカフェを利用している高齢者に電話で様子を伺ったり、運動不足解消や脳トレしてもらえよう資料をつけた手紙を届けました。また、同じ法人で取り組む助け合いの活動「まちのよろず屋」で生活支援を継続したり、他のNPO 法人と連携して子どもを対象にした配食事業を取り組みました。